平成２８年度　発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
（発達障害早期支援研究事業）
成果報告書（概要版）

実施機関名（日野市教育委員会）

1. テーマ

授業のＵＤ化と指導力向上を前提に、教科教育の視点を通して早期に課題のある児童・生徒を発見し、学習の三段構えによる早期支援の方法論の開発を行う。

2. 問題意識・提案背景

日野市では過去数年にわたり全小・中学校で環境のＵＤ化として取組んだ「ひのスタンダード」や授業のＵＤ化を実現する研究を行った実績がある。

しかし、一斉指導だけでは早期に課題のある児童・生徒のつまずきのすべてには対応できないことがある。

そこで、学習の三段構え（授業の工夫、授業中の個別の配慮、授業外の個に特化した指導）」による早期支援の方法論の開発を行う。

特に、早期支援の必要な児童・生徒のつまずきを明確にするためのアセスメントの開発と効果的な補充指導の方法論の開発が必要である。この方法は、専門機関や専門家によって判断や診断が付くのを待つことなく、授業に必要な支援の早期介入が可能になるものとしたい。

授業の一斉指導における指導の質の担保、指導力向上は必須である。

3. 目的・目標

〇学習面や行動面で何らかの困難を示す児童・生徒の明確化
〇学習面や行動面で何らかの困難を示す児童・生徒に対する支援内容を追究

通常の学級での授業で、つまずきのある児童生徒に対して、算数と国語について、アセスメント検査を実施する。主に算数と国語について、「個に特化した指導」を行い、支援を要する児童・生徒の変容を記録する。この方法の妥当性の確認と、どの学校でも継続可能な方法へのヒントを得るために基礎データの収集を行う。

これらの分析により、個々の児童生徒がどのようなところでつまずきが生じているのか。例えば、「書くこと」につまずきを抱えているならば「書くこと」のどこなのか、文字の形を捉えられないのか、文章が書けないのかなどより詳しく把握し、そこに対応した支援を検証することで、学習面や行動面で何らかの困難を示す児童・生徒の早期支援の方法論の確立を図る。

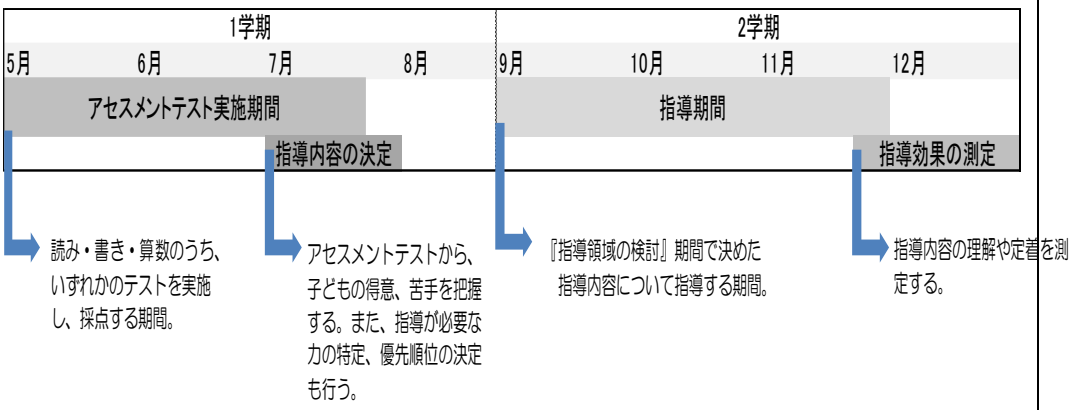
4. 主な成果

リソースルーム（学習支援室）と特別支援教室（情緒障害等通級指導学級）に通う児童を対象に、主なつまずきを読み、書き、算数のいずれか１つに絞り、

アセスメントと補充指導を全小学校１７校で行うことができた。また指定校１校の通常の学級に在籍する児童・生徒のアセスメントを実施し、支援を受ける児童との比較をすることができた。アセスメントから得られたつまずきに応じた補充指導を市内の全リソースルームティーチャーが行い、その効果を経験できたことは、個別指導のあり方や指導の向上に貢献している。あわせて、市内小・中学校１８校で行われた個別指導を支える通常の学級の授業のＵＤ化の取組は、教師が児童・生徒のつまずきに目を向け、授業の工夫をすることで、どの児童・生徒にとっても学びの質が違ってくることを実感し、授業改善の視点を得ることができたことは成果である。早期支援研究事業運営協議会については特に開催はせず、発達障害支援アドバイザーを中心に学校及び明星大学等と連携を取り合った。

5. 指定校における取組概要

小学校において、リソースルーム（学習支援室）に通う児童を対象に主要なつまずきを読み、書き、算数のいずれか１つに絞り、明星大学発達支援研究センターが開発しているアセスメントと指導を行った。内訳は、読み３１名、書き５６名、算数１２２名である。



テスト内容は２種類で、１つは学力を包括的に確認するテストであり、もう１つは学力を構成する要素を１つ１つ確認するテストである。

２学期にはアセスメントテストや指導領域の決定に関する資料を元に、明星大学発達支援研究センター研究員が作成したつまずきに応じた教材（10 分×4 回分）を用い、リソースルームティーチャーが個別指導の時間に指導を行った。

４回の指導後、効果測定のためポストテストを行った。特殊音節の読みなどにつまずきのある児童には、指導前と指導後では大きな伸びが見られた。特に低学年は顕著であった。

これらアセスメント～指導領域の決定～つまずきに応じた指導～効果測定の一連の流れを市内の全リソースルームティーチャーが取り組み、その効果を実感できたことは、学習につまずきのある児童に対する個別指導の質の向上に貢献した。

また、学習面で困難を示す児童・生徒に対する個別の指導が通常の学級での授業場面で活きるためには、通常の学級での授業がＵＤ化される必要がある。

そこで、市内小中学校１８校でＵＤ化の授業研究を行い、授業でのつまずきを想定し、三段構えの授業を追究した。それによって、早期支援の必要な児童・生徒のつまずきの発見を促した。また、教師が児童・生徒のつまずきに目を向け一斉授業の工夫をすることで、どの児童・生徒にとっても学びの質が違ってくることを実感し、授業改善の視点を得た。

なお、発達障害支援アドバイザー２名を配置し、児童・生徒の学習状況や授業観察をすることで、適宜、授業内容や指導方法の助言等を実施している。

6. 今後の課題と対応

アセスメントと指導の検証をしたところ、読み書き領域のテスト及び指導を行った児童や、算数領域を行った低学年の児童には指導の効果（指導前後のテストの成績の変化）が顕著に見られた。一方で算数領域では高学年になると低学年ほどの効果が出ていない児童も見られた。テストの信頼性妥当性の検証とともに教材の改良は今後の課題である。

学習の積み上げが必要となり、内容も複雑になる高学年を迎える前に、つまずきに応じた指導を早期に行うことが予後の改善には有効と考えられる。そのためには、担任等が早期に児童のつまずきに気付き、授業の三段構えのうち、「授業の工夫」「個への配慮」を行いながら、「授業外の個に特化した指導」が必要な児童を見立てる必要がある。その際に、今回行ったテストは有効であると考えるが、明確なつまずきが見られてから実施するのか、一律にスクリーニング形式で行うのかについては検討の余地がある。

また、「授業外の個に特化した指導」をさらに、授業の予復習を中心に行う「授業の補充指導」が必要な児童と、読み書き算数など、そもそものつまずきに対する指導を行う「基礎学力への指導」が必要な児童を見立てる必要がある。そしてこれらの「個に特化した指導」の中で見られた個別のつまずきやその支援方法、配慮事項が、一斉指導における「授業への工夫」「個への配慮」に反映されること、そのための体制を整備することが喫緊の課題である。

「特別な支援」が特別でなくなることを、全体的な教育効果の指標として評価していきたい。

本年度の取組は、ひのスタンダード第５段として冊子にまとめられ、市内全小・中学校の教師とリソースルームティーチャーに配布され共有されることになる。また、積極的に視察を受け入れるなどにより、他の自治体への周知も図っていきたい。

7. 指定校について

（小学校の場合）

指定校名：日野市立日野第三小学校

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	65	2	62	2	60	2	67	2	46	2	71	2
特別支援学級	5		5		5		7		2		7	計4

通級による指導（対象者数）	6		4		7		7		4		5	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	23	1	5	1	1	2	1			36

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害

※通級による指導の対象としている障害種：言語障害

指定校名：日野市立日野第七小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	98	3	101	3	94	3	98	3	92	3	77	2
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	21	1	2	1	1	0	2		2	32

指定校名：日野市立東光寺小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	84	3	55	2	84	3	66	2	79	2	67	2
通級による指導（対象者数）	6		6		11		8		10		9	計5
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	22	1	3	2	1	2	2			36

※通級による指導の対象としている障害種：情緒等障害

指定校名：日野市立日野第八小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	111	4	104	3	115	3	138	4	115	3	132	4
特別支援学級	1		2		3		1		5		1	計2
通級による指導（対象者数）	6		2		1		2		3		0	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	31	1	5	1	1	3	2		2	48

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害

※通級による指導の対象としている障害種：情緒等障害

（中学校の場合）

指定校名：日野市立大坂上中学校						
	第1学年		第2学年		第3学年	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
通常の学級	158	4	188	5	156	4

特別支援学級	6				12				7	計3	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	26	1	12	1	1	1	1	0	45

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害

8. 問い合わせ先

組織名：日野市教育委員会

(1) 担当部署　　日野市教育委員会　教育部　学校課

(2) 所在地　　日野市神明１－１２－１

(3) 電話番号　　０４２－５８５－１１１１

(4) FAX 番号　　０４２－５８３－９６８４

(5) メールアドレス　sidou@city.hino.lg.jp